

地域経済活性化支援機構（REVIC）が運営する人材紹介プラットフォーム「REVI Career」（レビキャリア）」が、地域金融機関に浸透してきた。地域銀行は全行が登録し、信用金庫や信用組合でも活用が増えている。REVICの柴田聡常務が本紙のインタビューに答え、今後の展望を語った。

◇
——2021年から始まった「レビキャリア」の直近の動きは。
「レビキャリアは地方企業と大企業出身の経営人材をマッチングする仕組みだ。現在、登録者数が5千人を超え、マッチング件数は累計232件に達した。全国の地方銀行98行全でと信金・信組を合わせて200機関が参加しており、全国ネ

柴田・REVIC常務

人材紹介“点”から“面”へ



柴田 聡氏（しばた・さとる） 岩手県出身、55歳。1992年大蔵省（現財務省）入省、2008年在中国大使館経済部参事官、16年金融庁監督局銀行第二課長、18年総合政策局参事官、19年同局総務課長、21年中国財務局長、22年6月から現職。

ネットワークが完成しつつある。今年度だけでも55件をマッチングしており、前年度の実績を上回るペースだ」
——見えてきた特徴は。
「想定よりも小規模な事業者への紹介が多い。マッチング実績の

6割は従業員100人以下の企業で、50人以下が4割を占める。求人・求職ともに金融機関の独自ネットワークで掲載するデータベースのため、細かい部分まで人が届いているという実感がある」
——人手不足が深刻な地方での事例は。
「中国財務局長を経験した縁もあり、鳥取県で4月に県や地域金融機関など13機関のネットワークが全国で初

めて発足した。この枠組みのおかげで、県の『ふるさと鳥取県定住機構』の登録者がレビキャリアを活用し、鳥取銀行が仲介するという好事例が誕生。7月に、第1号となる移住を伴う転職型マッチングが成立した。このような「点」が「面」となる『鳥取モデル』を他県にも広げていきたい」
——事業拡大の過程で苦労は。
「22年の夏に引き継

いた際には、ほぼ実績ゼロの状態でした。登録者のデータベースも数百人程度と貧弱な状態だったが、全国の金融機関を直接訪問して協力を要請した。年間50件のペースで全国津々浦々を渡り歩き、徐々に成果が出てきた。地銀頭取や信金理事長などとの面談を通じて、各地域の実情や求められる人材像の違いを理解するようになった」
——今後について。
「登録金融機関の約4分の3は、まだレビキャリアのマッチング実績がないため、今後大きな伸びしろがあると考えている。我々も登録者数1万人の早期達成のため、商工会議所との連携などを通じて事業の認知度向上に取り組んでいく」

（前田早貴）